

平成 28 年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会
第 55 回 大学美術教育学会 北海道大会

北海道大会 〈最終案内〉

平成28年度 日本教育大学協会
全国美術部門協議会
第55回 大学美術教育学会



2016年 9月24日(土)・25日(日) 北海道大会

■北海道大会テーマ

「美術と教育における地域の多様性」

会 期：平成 28 (2016) 年 9 月 24 日 (土)・25 日 (日)

会 場：北海道教育大学 札幌校 (札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目)

主 催： 日本教育大学協会全国美術部門
大学美術教育学会

共 催： 北海道教育大学

企画運営： 北海道大会実行委員会

<参加費>

会員・一般 事前申込：4,000 円 当日申込：5,000 円

院生・学生 事前申込：2,000 円 当日申込：3,000 円 ※現職教員含む。

懇親会：5,000 円 (会場：サッポロビール園 札幌市東区北 7 条東 9 丁目 2-10)

※第 1 日の研究発表後の懇親会場への移動は各自でお願いします。

※事前申込 (オンライン大会登録受付システムによる) は平成 28 年 9 月 1 日で締め切りました。大会当日、会場での参加申し込みをお願いします。

<問い合わせ先>

■オンライン登録システムに関する問い合わせ

中西印刷 大会システムサポートデスク

(参加申込・発表申込・概要集)

Tel 075-415-3661 E-mail: uaesj55@nacoss.com

■大会に関する問い合わせ

教大協全国美術部門・大学美術教育学会北海道大会実行委員会

事務局長 阿部 宏行 (岩見沢校) abe.hiroyuki@i.hokkyodai.ac.jp

■大学美術教育学会 学会総務

総務局長 新野貴則 tnino@yamanashi.ac.jp

◆ あいさつ

未来に対する責任を考える

北海道大会の開催にあたりましては、日本教育大学協会全国美術部門協議会・大学美術教育学会の皆様、中西印刷株式会社の方々、関係者の皆様に様々な面から支えていただき、北海道大会実行委員会を代表いたしまして心から御礼申し上げます。

北海道ではこれまで、1976（昭和 51）年と 1985（昭和 60）年に北海道教育大学札幌校で、1994（平成 6）年には北海道教育大学函館校で、2003（平成 15）年には北海道教育大学旭川校において、大学美術教育学会が開催されてきました。それらの経緯を踏まえて、「今回の北海道大会はどのような場になることを願っていますか」と問われれば、「一人一人が未来に対する責任を考える場になることを願っています」と答えます。責任感の欠如による事故や事件など、過去・現在・未来を俯瞰すれば、次世代の教育を考える上で「責任」は重要なキーワードになるからです。

では、責任とは何を意味するのでしょうか。端的に言えば、責めを引き受けるということです。これから起こる事柄や決定に対する責任を「未来に対する責任」とすれば、すでに起きた事柄やすでに為された決定や行為に対する責任、またはそれを説明する責任を「過去に対する責任」ということができます。「失敗は成功のもと」という言葉で表現できることもあります。いくら謝罪したとしてもあるいは職を辞したとしても取り返しのつかないことが存在するというのを忘れてはなりません。「過去に対する責任」として、元に戻そうとしても元に戻すことができない状況があるということです。生命に関するものはその最たるものといえます。取り返しのつかないことが起きないように、事前にリスクを考えて対策を練ることが必要です。言い換えれば、未来に対する責任を一人一人が考えるということになります。

それでは、未来に対する責任を考えるための場にはどのような事例があるのでしょうか。私は、4年間、北海道教育大学附属札幌中学校に勤務しました（大学と兼務）。3年生とともに修学旅行で訪れた長崎原爆資料館がそうした場の一例になると考えます。次のような出来事があったからです。先を進んでいた生徒数名が一枚の写真の前で棒のように立ち尽くしてしまいました。近づいてその写真を見ると少年（10歳くらい）が小さな子どもを背負いながら直立不動の姿勢で立っていました。裸足の少年は歯をくいしばりじっと前を見つめています。写真は原爆投下後の長崎に入ったアメリカの従軍カメラマンが撮ったものでした。眠っているように見えた小さな子どもは少年の弟（2歳くらい）であり、すでに亡くなっていたのです。火葬の順番を待ちながら、悲しみを少年は必死でこらえていたのです（※写真は、ジョー・オダネルが撮影した「焼き場に立つ少年」。『トランクの中の日本 米従軍カメラマンの非公式記録』〈小学館、1995〉に掲載されています）。立ち尽くした生徒は、言葉では簡単に表現できないほどの原爆や戦争の悲惨さという現実の重さに圧倒されたのだと思います。長崎原爆資料館は、平和や生命の共存という今後の人類の在り方について、他人事ではなく、自分たちの問題として考えるための貴重な体験の場になったのです。

本大会テーマ「美術と教育における地域の多様性」は、ユネスコの「文化的多様性に関する世界宣言」（2001年）及び我が国の「文化多様性に関する基本的な考え方について（報告）」（文化審議会、2004年）を踏まえたものであり、前述した「未来に対する責任」につながる大事な観点として「多様性」に着目したものです。第1日目（9月24日）におけるシンポジウムのタイトルでもあります。地域文化振興、教員養成、小・中・高等学校及び特別支援学校の教育など、それぞれの立場から、多様性に関わる課題について考えます。

最後になりましたが、北海道大会での企画行事、研究発表、総会、懇親会など、あらゆる場を通して、未来に対する責任を考え、その成果が日本の教育、さらには世界の教育の充実・発展に寄与できますことを期待して、平成28年度日本教育大学協会全国美術部門協議会・第55回大学美術教育学会「北海道大会」のご挨拶といたします。

北海道大会実行委員長 佐藤昌彦

【大会日程】

■ 大会前日の諸会議 9月23日(金) — 各委員会, 役員会

【北海道教育大学札幌駅前サテライト (sapporo55 ビル 4F) 中央区北5条西5丁目7】

12:30- 13:00	受付 (諸会議の30分前から受付を実施します。)
13:00- 13:30	拡大総務局会議【正副理事長・正副代表・総務局委員】※教室1
13:30- 14:20	全造連大学委員会【部門委員会委員】※教室2 ※全国大学造形美術教育連絡協議会 (美術部門と全美協の懇談会)
14:20- 15:20 ※審議延長 -17:00迄	全国学校美術教育支援委員会【部門委員会委員】 ※応接室 国際交流委員会【学会委員会委員】※多目的室/学会誌委員会【学会委員会委員】※教室3 / 全美協役員会【私学】 ※教室2
15:10- 15:30	受付【部門・学会共通】
15:30- 16:30	拡大理事会【学会理事役員会+部門委員役員 (共通審議事項を含む)】 ※教室1
16:30- 17:10	美術部門協議役員会【部門委員役員】 ※教室1

■ 第1日 9月24日(土) — 講義棟・講堂【北海道教育大学札幌校】

09:00-	部門・学会受付	講義棟入口 (右側)
09:30- 10:00	日本教育大学協会全国美術部門 開会式 第55回大学美術教育学会北海道大会 開会式	講義棟 3F 305
10:00- 11:25	日本教育大学協会全国美術部門 協議会 (日本教育大学協会全国美術部門・大学美術教育学会合同)	講義棟 3F 305
11:30- 12:00	口頭発表①	講義棟 3F 304, 305, 306, 307, 308 2F 207, 208
12:00- 13:00	昼休み (※学生食堂をご利用下さい) 全美協総会 (※講義棟 2F 208)	福利厚生棟 1F (講義棟左側)
13:00- 15:00	口頭発表②-⑤	講義棟 3F 304, 305, 306, 307, 308 2F 207, 208
15:20- 16:50	シンポジウム「美術と教育における地域の多様性」	講堂(講義棟 2F 出入り口)
16:50- 19:00	懇親会場へ移動 (JR札幌駅北口より直通バスがあります。)	
19:00- 21:00	懇親会 (※テーブル席による会食形式です。)	サッポロビール園 (トロンメルホール) 札幌市東区北7条東9丁目2-10 TEL:011-742-1531

■ 第2日 9月25日(日) — 講義棟・講堂【北海道教育大学札幌校】

09:30-	部門・学会受付	講義棟入口(右側)
10:00- 12:00	口頭発表⑥-⑨	講義棟 3F 304、305、306、307、308 2F 207
	全国美術教育学生会議①	講義棟 2F 208
12:00- 13:00	昼休み (※学生食堂をご利用下さい)	福利厚生棟 1F 学生ホール(講義棟左側)
12:30- 13:30	ポスター発表	福利厚生棟 1F (講義棟左側)
13:00- 13:30	口頭発表⑩	講義棟 3F 304、305、306、307、308 2F 207
	全国美術教育学生会議②	講義棟 2F 208
13:40- 14:10	日本教育大学協会全国美術部門・大学美術教育学会総会	講義棟 3F 305
14:20-	引き継ぎ(広島大学)	講義棟 2F 212

※会場周辺に昼食の施設がほとんどありません。大学の食堂をご利用ください。(献立は2種類のみです)

※口頭発表用のPCをご持参ください。プロジェクタへの接続は、基本的にVGA(D-Sub)対応で、HDMI非対応です。MacはVGA変換アダプタが必要です(ただし、発表室C、GのみHDMIの対応が可能です)。

※懇親会直前の申し込みは会場準備の関係からご遠慮ください。事前の申し込みをお願いします。

※第2日のポスター発表は1F学生ホール前で行います。研究説明を12:30-13:30の間に行います。

平成28年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会

日時：2016年9月24日(土) 10:00~11:25

会場：講義棟3F 305

テーマ：これからの造形美術教育を担う教員養成にかかわる大学の役割

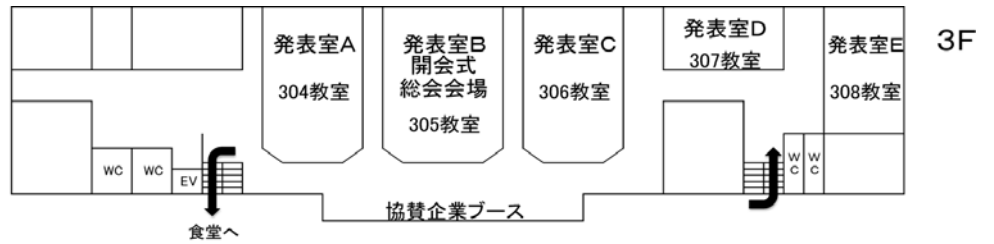
コーディネーター：喜多村徹雄(群馬大学)

パネリスト：阿部 宏行(北海道教育大学) 小野 康男(横浜国立大学)
新関 伸也(滋賀大学) 三澤 一実(武蔵野美術大学)

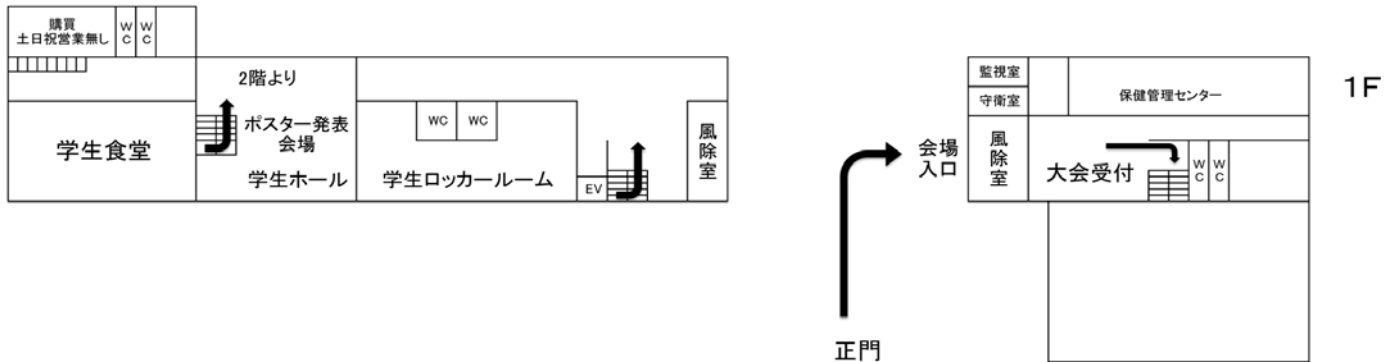
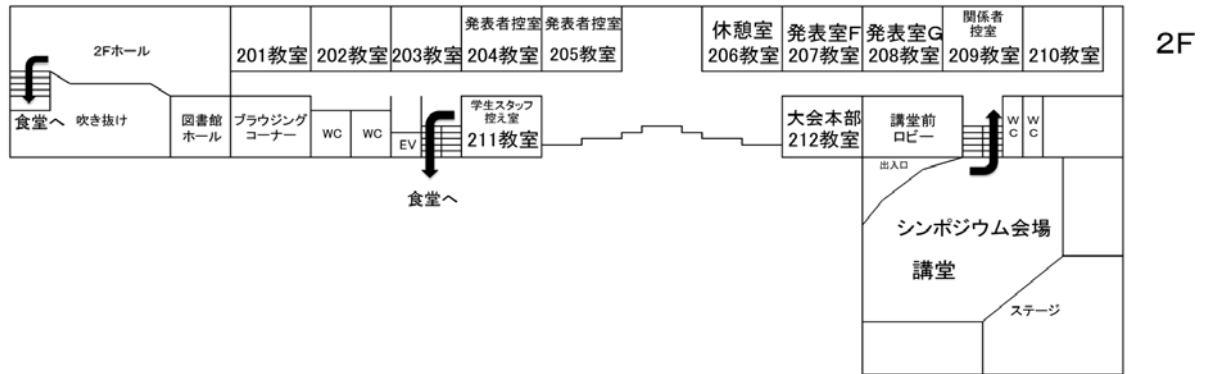
※日本教育大学協会全国美術部門協議会は大学美術教育学会との合同開催です。部門会員だけでなく学会員の方もご参加いただけます。

会場図

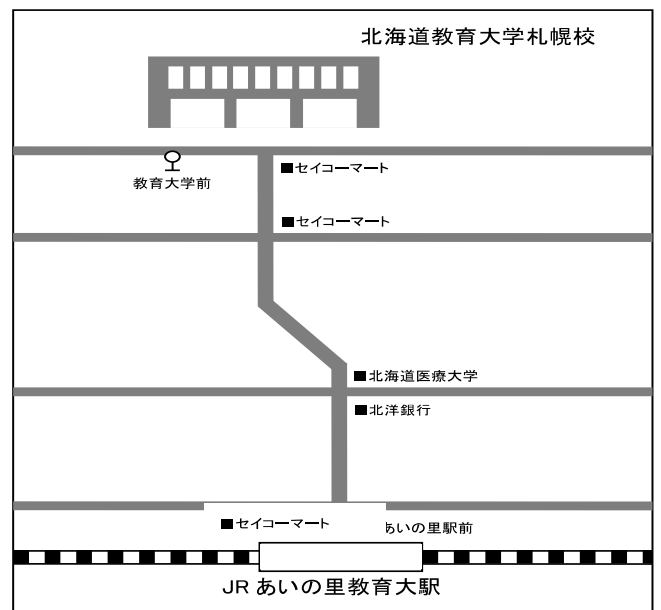
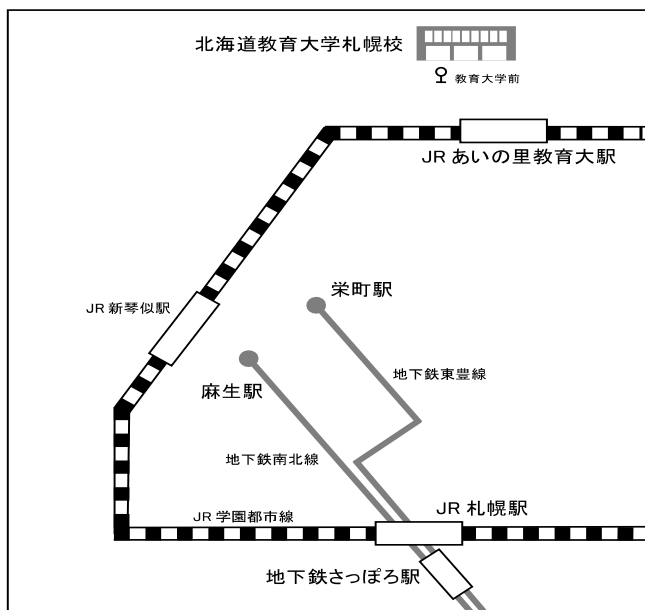
会場校平面図
北海道教育大学札幌校
講義棟



※2日目の学生会議は、発表室G(208教室)にて行います。



【会場校（北海道教育大学札幌校）までのアクセス ※札幌市中心部から50分ほどかかります。】



アクセス

【公共の交通機関 ※ 札幌市中心部から以下の4つのルートがあります。】

JR 学園都市線 → 徒歩	JR 札幌駅より 30 分, JR あいの里教育大駅で下車, 徒歩 20 分。
JR 学園都市線 → バス	JR 札幌駅より 30 分, JR あいの里教育大駅で下車, 中央バスあいの里教育大駅前 から「麻 24」, 「栄 20」, 「栄 23」(全てあいの里 4 条 1 丁目ゆき) で 5~10 分, あいの 里 4 条 5 丁目または教育大学前で下車。
地下鉄南北線 → バス	南北線麻生駅より「麻 24」で 35 分, あいの里 4 条 5 丁目または教育大学前で下車。
地下鉄東豊線 → バス	東豊線栄町駅より「栄 23」で 30 分, 「栄 20」で約 35 分, 教育大学前で下車。

■ JR時刻表

学園都市線 札幌駅時刻表 (下り)	
時	石狩当別方面
8	01 14 29 55
9	25 54
10	20 40
11	00 20 40
12	00 20 40
13	00 20 40

学園都市線 あいの里教育大駅時刻表 (上り)	
時	札幌方面
12	07 25 47
13	04 30 51
14	04 38
15	00 19 42
16	04 22 32 47
17	07 25 39 55

■ バス

麻 24 あいの里 4 条 1 丁目ゆき (教育大経由)		
発	麻生バスターミナル	教育大学前
着	教育大学前	麻生駅
8	20	08 28 48
9	17 37 57	08 28 48
10	17 37 57	08 28 48
11	17 37 57	08 28 48
12	17 37 57	17 37 57
13	17 37 57	17 37 57
14	17 37 57	08 28 48
15	17 37 57	08 28 48
16	17 37 57	08 28 48
17	17 37 57	18 48
18	17 37 57	27

※ 麻生バスターミナルは地下鉄麻生駅改札より地下歩道を南に 50m 進む。イオンに隣接した乗り場 3 番です。

【サッポロビール園 (懇親会場) までのアクセス】

タクシーをご利用の場合	JR 札幌駅北口より 1,000 円程度
バスをご利用の場合	① 系統番号 188 サッポロビール園・アリオ線 (懇親会場直通的路線バス) 「札幌駅北口」2 番乗場 20 分間隔 運賃: 片道 210 円
	② 循環 88 ファクトリー線 (通常の路線バス) 札幌駅南口東急百貨店南側「札幌駅前」乗場 20 分間隔 運賃: 片道 210 円

※ ①が 7~10 分程度でおすすめです。

【懇親会場案内図】 ※会場はトロンメルホールとなります。



シンポジウム「美術と教育における地域の多様性」

開催日時：2016年9月24日（第1日） 15:20～16:50

会場：北海道教育大学札幌校 講堂（講義棟2F入口）

発表者 南部 正人（北海道教育大学旭川校教授）
三橋 純予（北海道教育大学岩見沢校教授）
岩崎 愛彦（北広島市立大曲小学校教諭）
司会者 佐々木 宰（北海道教育大学釧路校教授）

本シンポジウムのキーワードは「多様性」であり、とくに「地域の多様性」をとりあげています。それぞれの地域は、そこに暮らす人々の特徴、生活様式、共同体意識をもとに形成された独自の文化的・歴史的背景を有しています。したがって、人が他者と異なった自我意識を持つ多様な存在であることと同様に、地域の多様性もまた自然なこととして受け止めることができるでしょう。さらに、美術・アートが地域の環境や歴史や文化に根ざすものであるならば、その多様性は自明なことであり、美術・アートをより豊かな文化創造へとつなげていくための条件となりましょう。

ところが、昨今では経済が様々な物事の判断基準とされることが多くなり、私たちの生活はもとより地域における文化でさえも、経済的な効率性・確実性が担保されなければ成立できない状況も生じています。グローバル社会の到来は、個人や地域の多様性を地球規模のスケールで理解する視点を提供してくれますが、経済効率優先の論理のもとでは地球規模での文化の同質化や標準化を招きかねません。

北海道は明治からの入植によって開かれた新しい土地です。先住民として暮らしていたアイヌの人々の文化、各地から入植した人々が持ち込んだ文化がそれぞれの地域で多様に展開する舞台となった広大な土地です。しかし、近年では都市部への人口流動が急速に進み、地域の文化的多様性が危機的な状況にあります。人口流出が止まらない地域では、地域文化の担い手じたいが急速に減少しているからです。

学校教育に目を移すと、都市部以外のへき地・小規模校を抱える多くの地域では、中学校の専任美術科教員が配置されない問題が生じています。また、図画工作の専門性をもった小学校教員の配置は相対的に減少していますし、規模の小さな高等学校においては美術の開講を控える傾向にあります。結果として、美術・アートに関わる教育力の低下は否めないのかもしれませんが。

地域の文化の担い手や、その教育機会が縮小傾向となっている地域の多様性の危機に、美術・アート、そしてその教育はどのように向き合っていくべきでしょうか。同じような問題は、日本各地で生じていることと思います。本シンポジウムでは、3人の発表者による北海道の事例の紹介を通して、この問題をみなさんとともに検討していきたいと考えています。

●発表者1 南部 正人

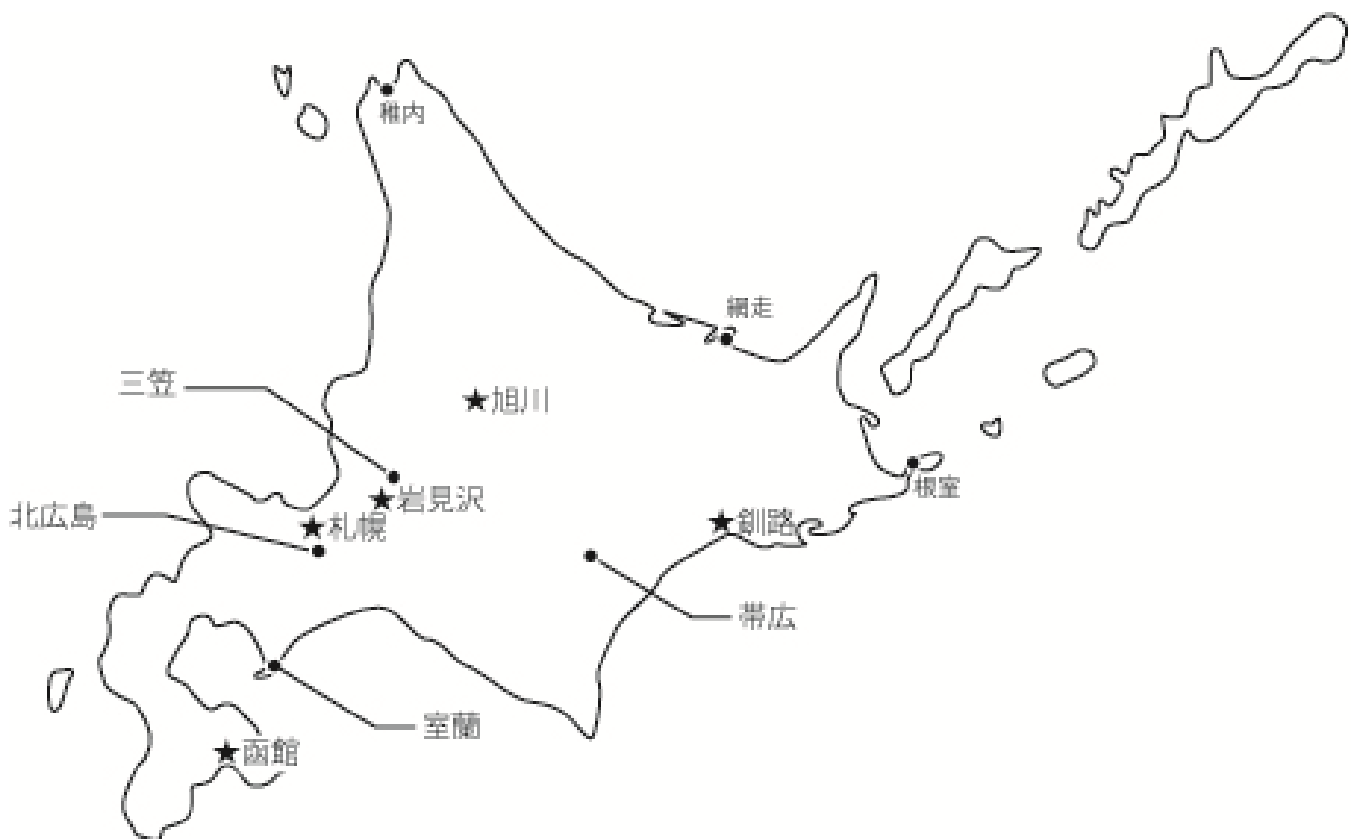
- ・地域教育連携を柱に、道北においてアートプロジェクトを続け、小中高等学校教員、地域の美術館、教員養成大学が連携し、児童生徒に多様なワークショップを提供している。
- ・同時に、他分野の大学教員と連携し、地方自治体に教育プログラムを提供している。
- ・こうした活動の報告を通して、教員に求められ、地域の多様性を維持発展させる能力とは何かを考える。

●発表者2 三橋 純予

- ・高度専門職業人の育成について
芸術・スポーツに特化した岩見沢校の特色
リージョナルセンター(あそびプロジェクト)、北海道立近代美術館との連携授業等
- ・北海道地域の歴史・文化・環境とアートの関わりについて
空知地域の炭鉱とアートコミュニティ(三笠プロジェクト)
新しい公共、公設民営施設(室蘭市民美術館)
- ・美術による地域の活性化について
岩見沢市教育大綱(芸術・スポーツ文化によるまちづくり、障害者スポーツ・アートの推進等)

●発表者3 岩崎 愛彦

- ・図画工作において生涯学習社会の基礎的学力の定着について
- ・地域の教育連携について
- ・児童生徒の文化的多様性について



□頭発表一覧

研究発表に際しての注意

1. 発表の準備は、発表者控え室（講義棟2Fの204教室、205教室）をご利用ください。
2. 研究発表の進行は次の通りです。（一鈴：15分、二鈴：20分、質疑応答：5分）
3. 発表に使用するPCは各自持ち込みをお願いします。
4. プロジェクタへの接続は、基本的にVGA（D-Sub）対応で、HDMI非対応です。MacはVGA変換アダプタが必要です。（ただし、発表室C、GのみHDMIの対応が可能です。）

【第1日目】 9月24日（土）

	発表室 A 304教室	発表室 B 305教室	発表室 C 306教室	発表室 D 307教室	発表室 E 308教室	発表室 F 207教室	発表室 G 208教室
11:30 ① 11:55	ブレント・ウイilsonにみる視覚美術の再創造について — 描画教育における模倣表現の役割 — 山田 唯仁（岐阜大学大学院）	シュトゥットガルトにおけるアドルフ・ヘルツェルと20世紀造形的構築性コンセプトの誕生 鈴木 幹雄（神戸大学）	「被りもの」の研究 福留 千智（福岡教育大学大学院）	多民族・多文化国家シンガポールの国民統合と美術教育 畑々木 宰（北海道教育大学）	アートから始まる色をテーマとした探究型学習の研究 — いのちの色をつくる・見る・感じる学びの提案 — 木村 典之（大分県立美術館） 藤井 康子（大分大学）	図画工作科における題材開発・題材設定に関する考察 実践事例の題材分析を通して 井ノ口 和子（筑波大学附属小学校、武蔵野市立桜野小学校、武蔵野市立本宿小学校）	造形活動における方向性>の相違について — 大学授業の制作から分析した内的世界と外的世界の関わり方の傾向 — 家崎 萌（上越教育大学大学院）
13:00 ② 13:25	京都府画学校関係者による毛筆画教育への関与(2) — 『玉泉習画帖』に掲載されたモチーフの意味 — 竹内 晋平（奈良教育大学）	3D画像としての《モナ・リザ》 ～絵画と両眼視差との関わりからの一考察～ 渡邊 晃一（福島大学）	グラグランドで遊ぶ 守川 美輪（宮崎国際大学）	「IT立国」エストニア共和国の教育 畑山 未央（東京家政大学）	教員養成課程学生のエンパワーメントを高める地域連携食文化プロジェクトに関する一考察 — 「日本茶大好き（ほうじ茶淹れ方体験と湯のみ茶碗づくり）」を事例に — 橋本 忠和（北海道教育大学）	絵画と戦争 ～藤田嗣治の《アツ島玉砕の図》の鑑賞授業について～ 小林 久美子（兵庫教育大学大学院連合）	大学院と現場勤務における理論と実践の往還型研究の試み(1) ～北海道立近代美術館の美術館教育を事例として～ 津田 しおり（北海道教育大学大学院）
13:30 ③ 13:55	繁野三郎の図画教育と『北海タイムス』にみる自由画運動 根山 梓（北海道教育大学大学院）	ヴァルネラビリティからレジリエンスへ「学びの映像論的転回」Ⅱ ～本宮方式映画教室運動に見る地域創生力～ 柳沼 宏寿（新潟大学）	子どもの造形的な活動の相互行為分析による臨床的研究のための基礎的考察Ⅲ ～「造形遊び」の授業研究等を通じた「還元」に係るプロセスモデルの構築とその可能性について～ 秋山 敏行（愛媛大学）	スペインにおける美術館と学校の有機的な関係性 Sofia Pastor Matamoros（富山大学）	<経験—語り—知覚>の意味生成モデルによる鑑賞活動の実践的過程 —美術館での対話による鑑賞：高松 次郎《No.273（影）》— 本間 美里（兵庫教育大学大学院連合） 松本 健義（上越教育大学）	イメージ画のパターン — 中学1年生「ドレンクデザイン」の実践から — 高橋 文子（東京未来大学）	大学院と現場勤務における理論と実践の往還型研究の試み(2) ～札幌芸術の森美術館の美術館教育を事例として～ 津田 しおり（北海道教育大学大学院） 竹中 七帆（北海道教育大学大学院）
14:00 ④ 14:25	戦前期全国中等学校図画教員の総覧的研究—北海道— 金子 一夫（茨城大学）	ヴァルネラビリティからレジリエンスへ「学びの映像論的転回」Ⅲ ～特殊の連鎖から普遍的「愛」が始まる～ 宮脇 理（Independent Scholar, 元・筑波大学） 柳沼 宏寿（新潟大学）	小学校図画工作科における和紙の活用—地域の伝統文化に着目して— 魚住 志貴（富山大学）	2014年版（2016年施行）教育改革におけるフィンランドものづくり教育の動向 三根 和浪（広島大学大学院）	アートマネジメント人材育成に向けた、地域連携による美術展の実施 白井 嘉尚（静岡大学）	自己投影による造形活動の深まりについての一考察 ～子どもの世界へ～ 小川 健（札幌市立伏見小学校）	家庭、地域と連携した特別支援学校での美術の取組 — つながりが深まる美術の実践とその意義 — 松倉 泰介（北海道教育大学附属特別支援学校）
14:30 ⑤ 14:55	美術教育学の制度的基盤の成立過程—北海道— 有田 洋子（島根大学）	「科学技術と芸術の連携」及び「国際共同研究ネットワークの構築」 —責任の問題を重視したものづくり教育を推進するために— 佐藤 昌彦（北海道教育大学） 宮脇 理（Independent Scholar, 元・筑波大学）	海月姫を探して：卒業研究における絵画表現の対話的指導に関する考察 富田 俊明（北海道教育大学）	ブータン王国におけるGNHに基づく美術教育に関する考察 釜野 真理子（滋賀大学大学院）	地域における造形教育とアートプロジェクトの視点からの考察 佐々木 善憲（函館市立昭和小学校）	中学校美術科におけるデザイン思考ワークの実践 岡本 弘美（大阪教育大学大学院）	外国語活動を取り入れた図画工作科の教科融合型学習の授業開発研究 藤井 康子（大分大学） 樋口 和美（福岡教育大学）

【第2日目】 9月25日(日)

	発表室 A 304教室	発表室 B 305教室	発表室 C 306教室	発表室 D 307教室	発表室 E 308教室	発表室 F 207教室	学生会議 208教室
10:00 ⑥ 10:25	アニメーションの手法を取り入れたアートゲームの開発 島谷 あゆみ (広島大学附属東雲小学校)	異文化間コンピテンシーを育成する図画工作科の学習開発 — 米国インディアナ大学東アジア研究所との国際協働を通して — 中村 和世 (広島大学)	身体を使った造形表現の展開と環境構成 — 親子を対象とした表現遊びの事例から — 吉川 暢子 (筑紫女学院大学)	協同的な学び論の検討Ⅴ — 「協同的創造」の学習環境デザイン原則の提案 — 手塚 千尋 (東京福祉大学短期大学部)	感じて、考える鑑賞の学習 — 美術館との連携 — 菊地 惟史 (札幌市立円山小学校)	子どもの美的感性に関する一考察 — 幼少期教育の実践活動の中で得られる美的感動に着目して — 小笠原文 (広島文化学園大学)	
10:30 ⑦ 10:55	現代アートを取り入れた図画工作科の授業開発 — 子どもの鑑賞に対する意欲の変容に着目して — 吉田 梨声 (広島大学大学院)	2016年の美術科教科書をめぐる動向 山口 喜雄 (前・宇都宮大学)	子ども(主として幼児)の土遊びを活性化させる土環境の開発 竹井 史 (愛知教育大学)	美術館所蔵作品の継続的な教育活用に資する研究 隅 敦 (富山大学)	批評による鑑賞の授業実践についての一考察 — 前衛書を鑑賞対象として — 田畑 理恵 (常磐大学, 都留文科大学)	日本美術に関する鑑賞と表現の教育実践研究 — 保育士及び幼稚園・小学校教員養成課程の大学生実態調査と実践事例を通して — 笥 有子 (浜松学院大学)	
11:00 ⑧ 11:25	アートカードを使用した鑑賞法の考察 深澤 悠里亜 (埼玉大学大学院)	中学校美術科のデジタル教科書とその活用に関する考察 — 中学校教員への聞き取り調査を基に — 佐藤 賢司 (大阪教育大学) 山田 芳明 (鳴門教育大学)	森の文化と木材の教養 — (一財)前田一步園と美術教育 — 福江 良純 (北海道教育大学)	教員養成系大学の特色を生かした美術館との連携Ⅲ — 小林古径記念美術館との連携事例からの考察 — 五十嵐 史帆 (上越教育大学) 笹川 修一 (小林古径記念美術館) 市川 高子 (小林古径記念美術館)	作品の情趣と鑑賞法の違いがもたらす主題感受のあり方 — 中学3年生におけるミレー作『種をまく人』とゴッホ作『種をまく人』の比較鑑賞を通して — 立原 慶一 (宮城教育大学)	子供が納得するまで取り組む絵画表現に向けて 森實 祐里 (札幌市立星置東小学校)	
11:30 ⑨ 11:55	図画工作科における「つくりたいものをつくる」活動に関する研究Ⅱ — 「つくりながら考える」造形プロセスについての考察 — 福井 一真 (愛媛大学)	小学校図画工作科のデジタル教科書とその活用に関する考察2 — 小学校教員への聞き取り調査を基に — 山田 芳明 (鳴門教育大学) 佐藤 賢司 (大阪教育大学)	彫刻表現における図と地の関係性についての一考察 西丸 純子 (上越教育大学大学院)	図画工作・美術への苦手意識をつくらない教育の研究 — 小学校教員養成課程における教育コンテンツ — 降旗 孝 (山形大学)	レンブラント「夜警(1642年)」の鑑賞題材化の試み — 集団肖像画の読解的鑑賞(物語を感じ取り想像し読む) — 岡田 匡史 (信州大学)	図画工作における異文化間教育の一考察 守屋 建 (東京学芸大学附属小金井小学校)	
12:00	昼休み (12:00~13:00)						
12:30 12:55	ポスター発表 (12:30~13:25) 会場: 福利厚生棟1F学生ホール (講義棟左)						
13:00 ⑩ 13:25	ワークショップにおける関係性に関する実践研究 — 『アートツール・キャラバン』の参加者に対する質問紙調査の分析より — 前沢 知子 (横浜国立大学大学院)		大阪万博以降の美術ジャンル・主題をめぐる論点と図画工作・美術科教育内容への影響 山田 一美 (東京学芸大学)	保育者養成におけるコミュニケーション能力を高める木育Ⅱ — 学生への質問紙調査から — 矢野 真 (京都女子大学)	特別支援教育におけるものづくりの教育的意義 山口 翔 (北海道教育大学附属札幌中学校)	北陸の気候に適した絵画下地の研究 横江 昌人 (小松市立高等学校, 金沢美術工芸大学)	学生会議 美術教育 全国

全国美術教育学生会議

学生会議
美術教育
全国

ポスター発表一覧

	発表題目	発表者
1	色の組合せを学ぶためのソフト開発に向けた基礎理論の研究	内田 裕子 (埼玉大学) 大岩 幸太郎 (大分大学)
2	「GraphicComposer2」の開発	江藤 亮 (大阪教育大学)
3	スーパーマーケットで行うアートプロジェクトの研究 -「とんでも図工室」の実践から-	大成 哲雄 (聖徳大学)
4	絵画制作における映像の再ビジュアル化の実践と考察 ～写真を使った絵画制作を通して～	大平 葵 (上越教育大学大学院)
5	保育者に求められる造形表現指導力育成の為にテキスト	北沢 昌代 (聖徳大学短期大学部) 畠山 智宏 (清和大学短期大学部) 中村 光絵 (昭和学院短期大学)
6	カンボジア王国における新たな美術教育の動向 各校独自開催の絵画展・授業視察と聞き取り調査から	鈴木 光男 (聖隷クリストファー大学)
7	国際交流作品展を軸とした美術教育研究の発信と相互交流	松尾 大介 (上越教育大学) 安部 泰 (上越教育大学) 高石 次郎 (上越教育大学) 洞谷 亜里佐 (上越教育大学) 伊藤 将和 (上越教育大学) 包 格日樂吐 (内蒙古民族大学) 阿部 靖子 (上越教育大学) 五十嵐 史帆 (上越教育大学)
8	校種間連携と大学連携における美術教育の可能性について	三澤 一実 (武蔵野美術大学)